

第 19 期生 ICAMA 参加報告

第 19 期 山崎 清乃

◆ICAMA 国際学会とは...？

ICAMA 国際学会とは、正式名称を“International Conference of Asian Marketing Associations”といい、Korean Marketing Association, Chinese Academy of Marketing Science, そして日本商業協会によって、2014 年から開催されている学会です。他の国際学会と同様、ICAMA でも匿名審査を経て高い評価を得た論文だけが、その学術的価値を評され、ICAMA にて論文を発表する権利を得ることが出来ます。

2022 年度は、“New Marketing Waves in Asian Markets”をテーマとして、韓国の済州島で開催されました。小野ゼミからは、第 19 期が論文を発表する権利を得て、初の国際学会での発表に挑みました。

◆執筆論文の概要

第 19 期の英語論文のタイトルは、“What Motivates Anime Viewers to Undertake an Anime Pilgrimage? Examining Three Types of Anime Pilgrims”です。近年、アニメ作品に関連した土地を訪ねる「アニメ聖地巡礼」という行動が見られます。既存研究は、人との繋がりや構築がアニメ聖地巡礼動機であると主張してきました。しかし、この主張は、巡礼者が抱えている社会的疎外感、および他者との交流が苦手な種類の巡礼者の存在を捨象しています。そこで、本論は、互いに異なる主体からの社会的疎外に直面している 2 種類の巡礼者を識別し、2 種類のアニメ聖地巡礼動機が巡礼意図の強さに及ぼす影響を探究することを試みました。

◆発表後記

念願の海外学会に参加することになった私たちは、観光の時間をたっぷり取るため、かなり時間に余裕を持ったスケジュールで日本を出発しました。

韓国に到着すると、私たちは早速観光へと繰り出しました。夜には済州島で有名だという黒豚のサムギョブサルを食べに行ったのですが、そこで食べた黒豚には大量の黒い毛が生えていて、全員で大変大きな衝撃を受けました。後から学会で一緒にした韓国人の方に伺ったところ、黒豚と偽って普通の豚肉を出している店が多いため、きちんと黒豚を出していることを証明するためにあえて



観光を楽しむ 19 期生
(カメラマンから時計回りに、
三浦、神谷、富江、長谷川、著者、鈴木、喜多村)

毛を残す店が多いとのことでした。現地の方と実際に話し、その土地の文化について学べることは、やはり旅の一番の醍醐味だと感じました。

到着直後から存分に済州島を楽しみ、美味しい韓国料理を食べて元気を取り戻した私たちは、ホテルに戻った後、2日後に控える学会発表に向けて、発表の練習や発表資料の確認を行いました。私たちの発表テーマである「聖地巡礼」を、どうしたら韓国の聴衆により理解してもらえるかを、日本にいらっしやる小野先生と、夜遅くまで議論しながら模索し続けました。結論としては、日本の有名なアニメ作品だとしても、韓国の聴衆には伝わりづらい可能性があるため、韓国で現在流行しているドラマを具体例として使おうということになったのですが、韓国ドラマのロケ地の写真を見つけることが非常に困難で、全員で何時間もインターネットの海をさまよいました。

翌日の夜には **Welcome Reception** があり、韓国の著名な学者の方と交流するという貴重な経験をさせていただきました。日本ですら名刺交換をしたことがなかった私たちは、初めての英語での名刺交換にただただ緊張していたことを覚えています。しかし、そんな私たちを皆さんは温かい目で見守ってくださったため、明日の発表もきっと大丈夫だ、と思うことが出来ました。

韓国について3日目、ついに発表当日の朝を迎えました。アットホームな学会の雰囲気のもと、私たちは非常にリラックスして発表することが出来ました。初日の夜に、具体例を日本のアニメ作品から韓国ドラマに変更したおかげか、初めのつかみで聴衆が一気に私たちの発表に興味を示してくれたことが感じ取れ、その後の発表も堂々と自信を持って行うことができました。質疑応答では、聴衆の鋭い質問に対して、帰国子女である鈴木が率先して回答することで事なきを得ました。



Welcome Reception にて
(左から、喜多村、鈴木、著者)



発表中の著者

発表後も、韓国の大学の様々な教授が、非常に興味深い発表だった、とお褒めの言葉をくださいました。

済州島最終日には、学会主催の済州島ツアーに参加させていただき、済州島を満喫することができました。また、懇親会では、海外の学者たちと歓談を楽しむという、普通の学生なら滅多に経験できないであろう経験をさせていただきました。英論執筆にあたって、大変なこともたくさんありましたが、全てが報われた気がしました。

最後に、学部生である私たちが、学生の枠を外れて、海外の研究者の方々から貴重なコメントを頂戴し、また、海外の学者と意見を交わすという貴重な経験ができたのは、昼夜を問わず熱心に私たちを指導して下さり、学会参加を後押しして下さった小野先生のおかげです。この場を借りて、心より感謝申し上げます。また、ご自身の研究でお忙しい中、豊富な知見から、いつも鋭い指摘をくださった大学院生の皆さま、そしていつも丁寧に指導して下さった第18期の先輩方にも、心より感謝申し上げます。